みやぎ環境学習パートナーシップ推進事業 交流会開催のお知らせ

日時:2006年3月4日(土)13:30~16:00 会場:せんだいメディアテーク7Fスタジオシアター

題名:「パートナーを見つけよう!

~つながりから始まる環境学習~」(仮)

定員:100名(先着順) 参加費:無料

■司会・進行■

木村美智子氏 (東北文化学園大学助教授)

■コーディネーター■

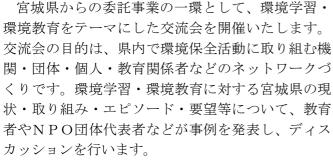
山田一裕氏 (岩手県立大学助教授)

■パネリスト(50音順)

石垣政裕氏(仙台小劇場演出家)

遠藤智栄氏(せんだい・みやぎ NPO センター)

三浦隆弘氏(なとり農と自然のがっこう)



詳細は事務局までお問い合わせ下さい







サザンの歌も少し止めてみて

例年にない大雪がふりつづいています。地球温暖 化でも?などと何でもかんでもすぐ地球環境問題に 原因を求めるのは問題ですが、自然の動きの一つ一 つを私たちの暮らしを見つめなおす機会としたいの です。

マイケル・フォアマン作、原 由子訳「てのなかのちきゅう」(佑学社1992年)を読んでみましょう。子どもたちが海へあそびに行く、海べはゆうべ考えてみた地球の、小さな地球のようだった。残った「しおだまり」の中に油が浮いている。地球もいろいろなところでよごされ続けている。私たちにできることはないだろうか。子どもたちは空きカンで油をすくい取りました。

ことばはとてもやさしい調子でかかれていますが、描かれている絵はそれ以上のたくさんのメッセージをつたえています。それらを読み手自身が探すように、ゆっくりと時間をかけながらページをめくりましょう。

この本の冒頭、女の子がいちにちじゅうずうっと地球を見ています。夜になっても。そして同じ空の下にいる生き物たちのことを考えます。ことばより多くを伝えている絵のメッセージを探さなければといいましたが、私たちは絵に描かれていない、絵に描かれる以前のたくさんのメッセージもさがさなければなりません。めまぐるしく移り変わっていく目のまえの生活を少し休んでみる。仕事中にほんの少しだけ目を閉じてみる。テレビを消してラジオにしてみる。ラジオを消して外の雪の気配を感じてみる。その順番にやっぱり私たちのこころはやさしくなっていきます。大好きなサザンオールスターズの音楽を少し止めて、メンバーの原由子さんの訳した本を読みましょう。

